

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年1月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1572300133		
法人名	特定非営利活動法人 合歡の会		
事業所名	グループホームねむの木		
所在地	新潟県魚沼市田戸628番地1 (電話) 025-794-5811		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	10月31日

【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 1月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4人、非常勤 7人、常勤換算	5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階	建ての	1階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,990 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 250 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ	円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要 (19年 9月現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82 歳	最低 65 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほんだ病院、藤本歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームねむの木は、魚野川にかかる堀之内橋を渡ってすぐののどかな田園地帯に位置しており、自然豊かな環境に恵まれ、利用者にとってはまさに馴染みの生活を継続できる雰囲気がある。平成15年に地域の有志によるNPO組織が立上げたグループホームであり、元社員寮となっていた住宅を改造し、木造住宅の温かみと使い慣れた雰囲気の利点を十分に活用して生活支援に取り組んでいる。職員は利用者個々の状態をよく把握し、食事準備や掃除、洗濯物干し、収穫等を利用者とともにやっている。職員の対応は柔らかく、利用者も落ち着いて過ごされており、利用者と職員の馴染みの関係が築かれている様子がうかがえた。管理者及び計画作成者は元医療関係者であり、利用者の心身状況の管理についても安心感がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価を踏まえて、使い慣れた物品を整備したり、本人の希望を引き出せるよう働きかけ、利用者が安心して馴染みの生活を継続できるよう努めている。運営理念の啓蒙啓発の働きかけや、研修の計画的実施や復命書等を利用した報告等職員全体のレベルアップへの取り組みについては、今後更なる取り組みを期待したい。
重点項目	今回の自己評価を実施するに際し、現在行なわれているケア内容をきちんと見直しており、更に質の向上をめざす姿勢が感じられる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議に行政関係者2名の参加を得ており、行政と積極的に連携する取組みは今後も継続してもらいたい。会議は概ね2カ月毎に開催しているが、議事録綴りの家族等への開示が殆どなされていなく、また、自己評価の内容も説明されていない。運営推進会議の意義を十分に理解した上で、家族や行政及び地域住民代表と連携しながらサービス評価を活用することも大切である。利用者一人ひとりの生活の質の向上のためにも、管理者・職員側以外の声を運営に反映する今後の取り組みに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	苦情処理マニュアル及び第三者委員会も整備され、家族の苦情要望を受付ける体制作りは十分になされている。しかし、それ以前に家族との良好な関係を保つ取組みを行なうことが大切である。毎月のお便りや写真で個々の利用者の状況を家族に伝える、そうした地道な取組みを行なうことで、事業所との信頼関係を保ち、家族の不安を払拭することも出来る。今後の取組みに期待する。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	殆ど毎日散歩に出掛け、地域住民との交流は活発である。ホーム側からの夏祭りの企画に地域住民が参加したり、地域公民館行事に利用者が参加したりと、ホームの存在を地域に知ってもらえるよう取り組んでいる。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設当初に、「みんなと共に、明るく笑顔のたえない暮らし、利用者の立場にたって物事を考える」という理念を職員で協議し作り上げている。「みんなと共に・・・」の中に地域も含んで考えているが、さらに、「地域」というキーワードを具体的に盛り込み、地域に向けた事業所の理念をより明確にすることを検討中である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、職員の目に触れやすいよう台所に掲示されている。管理者は職員に機会ある毎に理念の説明を行い、ケース会議等を通じて理念の共有化を図るよう努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営母体であるNPO機関紙を年一回作成し、NPO法人の会員に発行し、理念の浸透を図るよう努力しているが、家族および近隣地域に対しての啓蒙の取組みが不足している。		ホームの活動の様子を紹介する「お便り」等を作成し利用者家族に配布したり、地域の回覧板で「お便り」等を回覧するなど、ホームを理解してもらえるようなさらなる取組みが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街に所在するホームであり、散歩の際など地域住民との交流は日常的に行なわれている。季節の野菜が地域住民から届いたり、ホームの主催する夏祭りに地域住民が参加し交流を深めている。また、地域公民館での文化祭にもホーム利用者が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、計画作成者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を十分理解し、ホーム運営が改善向上できるよう取組みを行なっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年7月より概ね2カ月毎に家族、行政、地域住民等を構成者として開催しているが、議事録の家族等への開示が殆どなされていない。また、サービス評価の内容も説明されていない。		運営推進会議開催の意義をさらに理解すると共に、サービス評価についても運営推進会議と協力して取り組むことが望まれる

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が主催する毎月の地域ケア会議等に参加し、行政関係者との連携を十分に図っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からの伝達文書等により高齢者虐待防止関連についての情報を共有している。また、日々の実践の中で虐待防止について意識統一を図るよう努めている。今後は高齢者虐待防止関連法規等について、内部研修を通じてさらなる理解を深める予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の面会時に利用者の様子を口頭で家族に報告しているが、面会の少ない家族に対しての取り組みが十分ではない。		面会の少ない家族に対しても、利用者担当職員からの文書での報告や利用者の写真を定期的に送付するなどし、利用者のホームでの生活の様子を十分に報告することが望まれる。面会に来られる家族にも、口頭に加えて文書や写真を活用し、さらに具体的な報告を行なうことも期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理マニュアルが整備され、苦情受付担当職員不在時にも適正に苦情受付の対応ができるよう周知されている。また、第三者委員会も設置されている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体職員会議が開催され、管理者は利用者個々のケアや、行事、設備等についての職員の意見を集め運営に反映するよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に事業所は1ヶ所であるので異動はない。やむを得ず離職があった場合にも、利用者の生活に影響を生じさせないよう、引継ぎを十分に行なう等配慮している。また、担当が代わる場合にも、利用者十分に説明している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	簡易的なマニュアルが整備され、職員が適時目を通せるよう図られているが、ホームの現況に即した介護マニュアルの整備と、定期的なマニュアルの見直しがなされていない。		ケア水準を確保するためにも、介護マニュアルや衛生管理・事故防止等のマニュアル等、ホームの現況に即した内容での整備が望まれる。また、実際に活用できるマニュアルとするため、定期的に見直しを行なうことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が少ない中で、外部研修に派遣できるよう努力している。しかし、外部研修参加後の復命が十分に活用されていない。また、計画的な研修の実施には至っていない。		復命書の活用や伝達研修等で研修に参加してきた内容を他の職員にも周知してケアに活用するとともに、外部・内部研修の計画的な企画・実施により、職員のステップアップを図ることが期待される。また、今後とくに、介護技術や虐待防止、個人情報保護等さまざまなテーマでの内部研修の活発化を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、以前より同業者との交流やネットワーク作りの意義を理解し、概ね3カ月毎に近隣のグループホームとの交流及び学習会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が個別に職員の話の聞いたり、親睦会を行い、悩みやストレスの解消に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が事前に自宅を訪問するとともに、ホーム見学をしてもらっている。利用サービス機関等を通じて利用者の生活歴や性格、趣味を把握し、ホーム利用に際し利用者の視点に立った配慮工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リビングでの会話や食事の際など、日常の中で利用者がこれまでの生活で大切にしてきたことや思い出等を聞き出すよう努めている。食事作りや居室掃除、畑作業を共に行いながら利用者とともに支えあう関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が参加できる行事を定期的に企画したり、面会に来ない家族に対してはホームに来てもらえるようお誘いするなどし、共に利用者を支えあう関係づくりをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に意向を聞いたり、日常生活の中で食べたい食事や行きたい場所を聞く等、時間をかけてゆっくりと利用者の希望を引き出す関わり方をしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活を継続するという視点で、入居の際にセンター方式のアセスメントを活用して利用者の状態把握に努めているが、入居前の情報の記述や、家族及び本人からの情報等、これまでの暮らしに関する情報量が不足している。		センター方式アセスメントの利点を把握してさらなる活用に努めるとともに、利用者本人や家族等からの聞き取りを十分に行い、利用者一人ひとりの得意なことや好きなことを日常生活の中で実践できるよう、情報を集め整理することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意見・希望を取り入れながら、カンファレンスによって職員間で協議し、チームで介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して定期的な見直しを行うと共に、月1回はケース会議を通じてモニタリングを実施し、利用者の状況の変化に応じた介護計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診について基本は家族対応であるが、本人・家族の状況によりホームの職員が対応している。また、家族が遠方より面会に来られた時は安価で宿泊できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者及びサービス計画作成者は元医療関係者であり、かかりつけ医との関係を良好に築きながら適正な医療支援が行えるよう努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっており、重度化した場合の指針も作成されている。入居に際して家族に事業所側の方針を十分に説明し同意を得た中で、支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、その利用者に合わせてさりげない介助や安心できる言葉かけを行っている。排泄チェック等の記録類も全体の目に触れないよう配慮がされている。今後、内部研修にて個人情報保護法等の関係法規についても学習を予定している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のミーティングで常に振り返りをしながら、職員の都合で物事を進めることのないよう意識している。ゆっくりと食事をしたい人、団らんを楽しみたい人など利用者一人ひとりのペースに合わせ支援するよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を十分に活かし、利用者の希望も聞きながら、個々の利用者の能力に合わせて協働で食事作りを行っている。また、職員も利用者と一緒に同じテーブルで食事を摂り、食事を楽しむ支援を行っている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ほとんどの利用者が排泄は自立であるが、紙パンツ、尿取りパットを使用している方にも声かけをし、安心して排泄が出来るよう配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日ではないが、午後の時間帯の中で利用者がのんびりと入浴が楽しめるよう工夫されている。夏期は毎日入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日中の散歩や台所仕事、居室掃除、畑の収穫等、利用者個々の生活歴や能力を把握しながら、生活の中に役割や楽しみを持てるよう努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を積極的に行っている。また、理美容院や買物に出かけたり、地域の行事に参加するなど、積極的に外出の機会を作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという共通の認識が図られ、実際に身体拘束は行われていない。今後は、身体拘束についての内部研修会も予定されている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全管理上夜間帯の施錠は行なわれているが、日中は玄関の鍵はかけておらず、出入りは自由である。出入りを把握するため音の出るマットを玄関に設置し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日常の業務の中で発生するヒヤリハット及び事故を書きとめ、対応策を立て事故の予防や再発防止に努めているが、個々の事例が事故報告書・ヒヤリハット報告書といった書類としては整理されていない。		日常的に起こりえる事故を未然に防止し、ケアの質を向上するためにもヒヤリハット及び事故の事例を分析し、以後も見直ししやすいよう、事故報告書・ヒヤリハット報告書といった書類で整備することが望まれる。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	消防署主催の救急救命法の講習会に職員を参加させる等、急変や事故発生に備えた取組みを行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	定期的に消防署立会いのもと避難防災訓練を実施している。職員会議の中でも防災意識の啓蒙に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせた食事量や水分摂取量を確保できるよう、記録を行ない配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>移動の利便性を考えて住宅用エレベーターが設置され、また、水周りの動線もよく考えられ、利用者が生活しやすい環境づくりがなされている。木造住宅の温かみがあり、障子等馴染みのものを使用していたり、季節の花を生けるなど、利用者が落ち着ける空間づくりに取り組んでいる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前からの馴染みの品を居室に持ち込んでもらったり、装飾品を飾る等、利用者にとって居心地の良い環境を作り出せるよう取り組んでいる。</p>		